

菊池 流帆

Ryuho Kikuchi



©VISSEL KOBE

一人の男の遥かなる航海

サッカー界で、知らぬものはいない存在になりつつある選手がいる。その名は菊池流帆。釜石初のJリーガーだ。各国の代表を担うスター選手が数多く在籍するヴィッセル神戸に所属し、2021シーズンは、センターバックとしてレギュラーの座を獲得。Jリーグの年間優秀選手にも選出され、チーム史上最高の3位という成績に大きく貢献した。これは数字からも明らかで、8位に終わった2019年シーズン、14位と低迷した2020シーズンのチーム失点数がともに59だったのに対し、2021シーズンは36と大幅に減少させた。その中心に流帆がいるのは間違いない。絶対にゴールを割らせまいと体を張ってチームを鼓舞するプレースタイルは、見る者を熱くさせる。彼の気迫の込められたプレーの原点はどこにあるのか。中学の同級生という立場から、彼のサッカー人生に迫った。

夢を叶えるための選択

「りゅうほ」という珍しい名前は「大きな帆を広げ、どんなに辛い事や苦しい事があっても強く前進してほしい」と父 公威^{きみたけ}さんと母 裕子さんがつけた名前だ。そんな流帆がサッカーを始めたのは、小学2年の時。練習を積み重ね、学年を上げるごとにめきめきと上達し、地域の中ではひときわ目立つ存在となっていた。その頃からの彼の夢は「日本代表になり、海外のビッグクラブでプレーすること」だった。

進路を考え始めた中学3年の頃、夢の実現のため、彼が進学を



攻撃の中心選手として活躍した小学時代

定だった選手が怪我で落選し、31番目の選手として選ばれた。それだけでなく、初戦のスタメンにも抜擢された。その日は、天が味方するように雪が降っていた。得意な舞台。やれる。流帆は磨き上げたヘディングで、ボールをはじき返し続けた。ゴールも決めた。気持ちを前面に出し続けた。

それをきっかけにレギュラーになり、3月に行われたサニックス杯では、優秀選手賞を受賞。高校3年では、インターハイ、選手権大会とともに優秀選手に輝き「日本高校選抜」にも選出され、ヨーロッパ遠征も経験した。気づくとスタンドで応援していた1年前から応援される立場に変わっていた。「今振り返ると信じられない話ですけど、本当最後の1年間で、どんどん変わりました。試合に出れるかどうかというところから1年で高校選抜なので（笑）ただ、高校選抜では、ほとんど出られなかったんですよ。なので、当時は喜びよりも悔しきの方が大きかったですね。全然満足したって感じではなかったです」長く苦しかった2年。それを乗

志したのは、青森山田高校だった。

同校のサッカー部は、全国大会でも数々の優勝経験を誇り、多くのJリーガーを輩出していることから、プロを志したエリートが全国から集まる。その大半は、特待生を決めるセレクションで合格した生徒が入部するのが一般的だ。そこで、流帆はセレクションを受けようと思い、両親に話すと「3年間ボール拾いで終わるぞ。それで本当にいいのか」と反対された。「セレクションにだけでも参加させてほしい」と頼み、受けることが決まった。しかし、結果は不合格。全国レベルの選手との力の差を体感した。それでも、夢を叶えるためには、そこに行くしかないと思った流帆は「一般入学で青森山田に行かせてください」と懇願した。その覚悟を尊重し、両親は背中を押した。そうして彼は大海原へと舵を切った。

挫折・苦悩 その先に見えた光

憧れの青森山田でのサッカー生活スタートさせた流帆。入部して

り越え、駆け上がった最後の1年。人生が変わった3年間だった。

世界一の経験・プロの世界へ

高校卒業後、大阪体育大学に進学すると、1年時からレギュラーとして活躍し、全日本選抜にも選出された。2年時はけがに泣かされたが、3年時には大学生のオリンピックとも呼ばれるユニバーシアード日本代表として、世界一も経験した。「流帆はJ1のどのチームに行くのか」そんな期待感に周囲は包まれていた。しかし、4年の夏になっても一向にJ1のチームから声はかからず、最終的にJ2のレノファ山口から、10月に内定を得た。「悔しいしなかったです。J1に行くのが当たり前だと思っていたのに、全然オファーも無くて。しかも唯一オファーのあったJ2のチームにも全然通用しなくて。自分に絶望しましたね」と当時を振り返る。それでも、日本代表になるという目標が揺らぐことはなかった。「入団してから、チームメイトにも『日本代表なんて絶対無理だろ』

最初の練習は10キロ走だった。特に走り込みには力を入れていた流帆は、勢いよくスタートを切った。しかし、結果はビリから2番目。その後の走り込みにもついていけない。一週間後、初めてボールを使った練習があった。足元の技術に自信があった流帆だったが、これもほとんど通用しなかった。その後のチーム分けの結果は、Dチームという一番下のチーム。自分が考えていた以上に現実は厳しかった。この環境でも生き残っていくため、それまでメインポジションだったサイド

ハーフから、持ち前の長身とヘディングを生かせる、センターバックへと転向した。

そこからも苦悩が続き「Dチームの奴が練習しても意味ねーよ」と先輩から心無い言葉を浴びせられる時もあった。でも、流帆はあきらめなかった。来る日も来る日もヘディングを磨いた。「絶対に見返してやる」そう心に誓い、がむしやらに練習した。

2年の冬の選手権大会もスタนด์応援で終え、3年生が引退し、自分たちの代になった。迎えた最

とも言われました。でも、見返してやろうとも思えましたね」

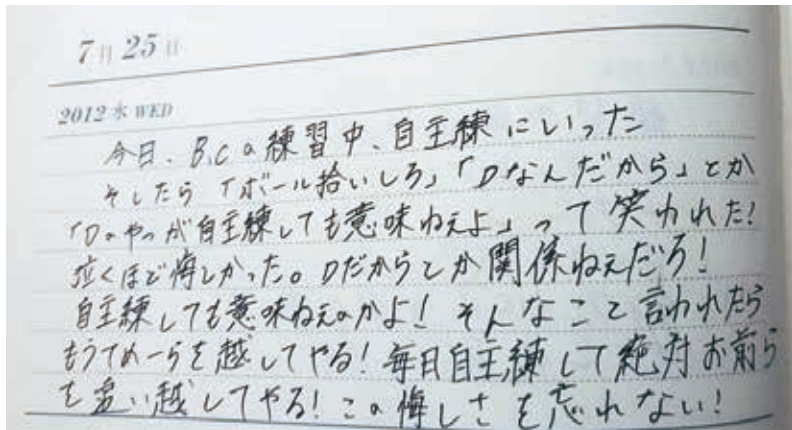
その気持ちを持ち続けながら、プロ1年目のシーズン戦いを戦い終えると、流帆の下にJ1の複数クラブからオファーが届いた。その中から迷わずヴィッセル神戸行きを選択した。「その時は素直に嬉しかったです。言わずと知れたスター選手が集まるチームなので、注目度も高いし、これはチャンスだと思います」

ヴィッセル神戸に移籍した2020シーズン序盤は、出場機会に恵まれなかったが、途中から出番が増えると、着実に評価を上げていった。アジアを舞台に戦うACL（アジアのサッカークラブの頂点を決める大会）では、体の強い外国人選手相手に、持ち前の身体能力を生かした空中戦や対人で圧倒し、ベスト4進出に大きく貢献した。

その勢いのままに2021シーズンは、リーグ戦初戦から、全38試合中37試合に出場。年間優秀選手、空中戦勝率ナンバーワンに輝くなど、Jリーグのトップ選手に上り詰めた。

後の1年。少しずつ出番は与えられていたものの、レギュラーにはまだまだ遠い状況。その中で、流帆が最も得意としていたのが、雪上での練習だった。通常の練習より一層きつかったが、レギュラーを勝ち取るため、歯を食いしばり、アピールを続けた。

そんな時、流帆に転機が訪れた。2月の東北新人戦の30人のメンバーに選ばれたのだ。選ばれる予



高校時代に毎日つけていた日記



がむしやらに練習し、レギュラーを獲得した高校時代（後列左）



大学時代は“世界一”をピッチで経験



空中戦では無類の強さを誇る

故郷への想い

高校から金石を離れた流帆だったが、心の片隅にはいつも金石があった。「みんな家族のように温かいですね。震災があつて、サッカーに対する思いも変わりました。自分が今こうしてプロになったのも、いつどんな時でも支えてくれ、応援してくれる家族の存在が大きいです。金石の人たちも、自分が活躍することで喜んでくれて、それが大きな原動力になっていきます。そんな金石に、これからは自分が恩返ししていきたいです」と故郷への想いを語る。そういった想いから、昨年末には金石で練習会も開催した。集まった後輩たちに「自分を信じ続けてやれば絶対プロになれる。いつか同じ舞台で一緒にプレーすることを楽しみにしています」とメッセージを送った。

取材を通して感じた彼の自信についても聞いてみた。「元々根拠のない自信は、子どもの時からあったんですよ。全然結果を残してないのに、ずっと自分が一番うまいと思っていましたし（笑）ただ、そうずっと信じてきたからこそ、プロになれたと思います。今も自分が一番

のセンターバックだと思ってやっているし、だから日本代表にもなれると思っています」『自分を信じる』と言葉にするのは簡単だが、その言葉の裏には、並々ならぬ努力があったことは想像に難くない。

彼の航海は、これまでいくつもの大きな試練に見舞われてきた。しかし、そのたびに「絶対にできる」と自分を信じ続け、乗り越えてきた。まるで、彼の名前の由来がそのまま人生に表れているかのようだ。これからの彼の大きな夢には、数々の荒波が待ち受けているだろう。しかし、これだけは言い切れる。どんなにつらい嵐が来ても、どんなに強烈な向かい風が吹いても、自分を信じて乗り越えてくれると。そんな彼を我々も信じよう。応援しよう。そうすれば彼は、その大きな帆をいっぱい広げ、その応援を追い風に進んでいくってくれるはずだ。そしていつか、海外のビッグクラブで活躍し、釜石初の「日の丸を背負う選手」になるその日まで、流帆の航海はまだ続く。バモス流帆！世界にその名が轟く日まで、釜石は応援し続ける。

2月19日(土)から2022シーズンが始まります
釜石全体で菊池選手を応援しましょう！



きくち りゅうほ
菊池 流帆

1996年定内町生まれ。188cm/88kg。小佐野小、釜石中、青森山田高校、大阪体育大学を経て、2019年にJ2のレノファ山口でプロデビュー。その後、J1のヴィッセル神戸へ移籍。2021年シーズンからレギュラーに定着。2021シーズンJリーグ年間優秀選手。2021シーズン空中戦勝率ナンバーワン。好きな言葉は「思考は現実化する」



Instagram



Twitter

抽選で各1名様に菊池選手からプレゼント

プレゼント① ユニフォーム(直筆サイン入り) **プレゼント②** タオル(直筆サイン入り)

応募方法 次のリンク先から広報かまいしに関するアンケートに答えて、お申し込みください

応募条件 当選後、直接市役所に賞品を受け取りに来れる人
※抽選で当選した人には、後日こちらからご連絡します
※賞品受け渡し時に、身分証の提示をお願いします
※応募にはLINEアカウントが必要です

応募締切 3月4日(金)

プレゼントアンケート



問い合わせ 市広聴広報課 広聴広報係 ☎27-8419

